

国立大学法人における 病院図書室と大学図書館 の連携について

2006.7.16 MIS23 千葉大会

愛媛大学図書館医学部分館

土出 郁子 <tikuko@lib.ehime-u.ac.jp>

0. 調査の目的と方法

目的・問題の所在

- 国立大学法人における図書館の「連携」という観点
- 患者が医療情報を得るための機能が病院内に存在するか
- その機能を補佐・補完するための連携が行われているか

調査方法

対象: 国立大学法人で医学部等附属病院と医学系の大学図書館を有する42大学

予備調査として病院と大学図書館のホームページ調査

病院患者サービス担当部署と大学図書館へのアンケート調査

1. ホームページ調査

病院ホームページ

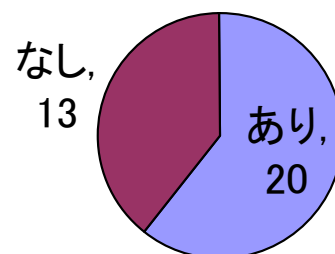
- 「患者用の図書室がある」ことが明記されているか
- 運営スタッフについての記述があるか

大学図書館ホームページ

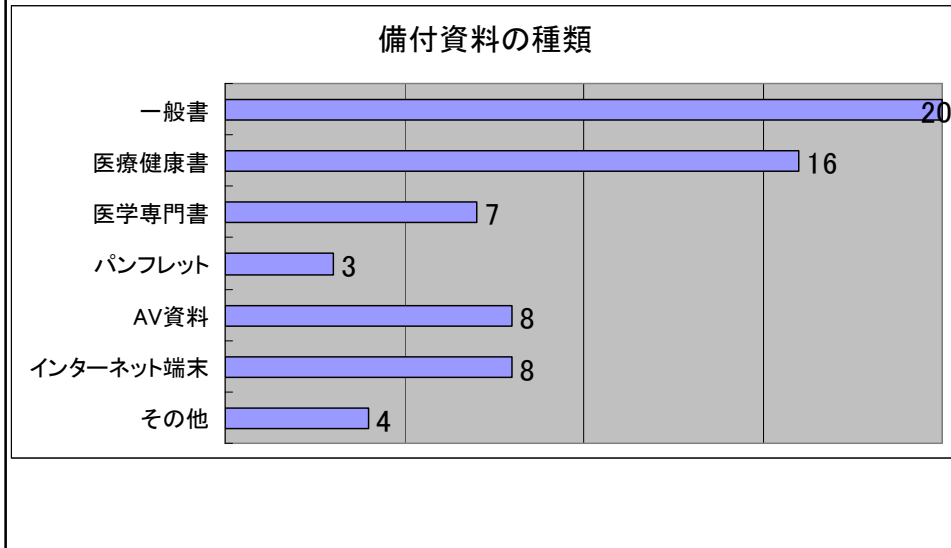
- 病院図書室との連携について記述があるか
- 病院の患者へのサービス・利用方法について記述があるか

2. アンケート調査（病院）結果1

病院図書室の有無 (n=33)



2. アンケート調査（病院）結果2-1

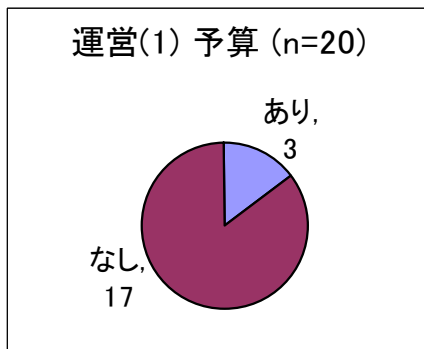


2. アンケート調査（病院）結果2-1

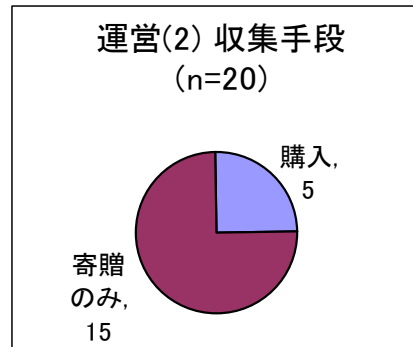
備付資料の種別冊数など：

	一般	医療健康	学術	パンフ	AV	ネット端末
平均	3643	178	445	12	60	2.5
最小値	100	20	10	1	1	2
最大値	10000	700	2500	30	120	4

2. アンケート調査(病院) 結果2-2



予算: 4万-30万円 / 年



購入冊数: 40-500冊 / 年

2. アンケート調査(病院) 結果2-2

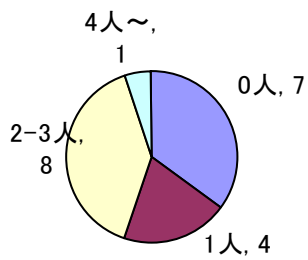
図書室開室時間

	週日数	1日時間	週延べ時間
平均	4.2	4	17.3
最小	1	2	3.5
最大	7	8	40

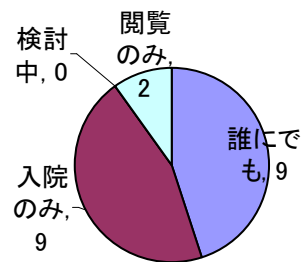
スタッフ常駐なしで常時開室(開放)... 6例

2. アンケート調査（病院）結果2-2

運営(3) 開室時のスタッフ
(n=20)

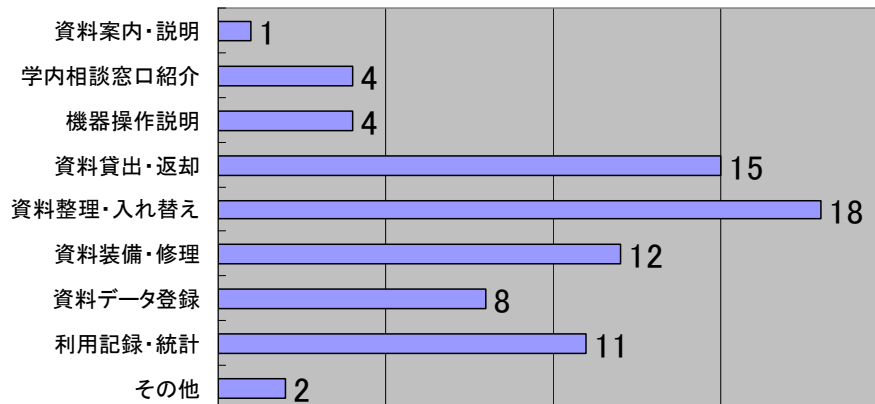


運営(4) 貸出対象 (n=20)

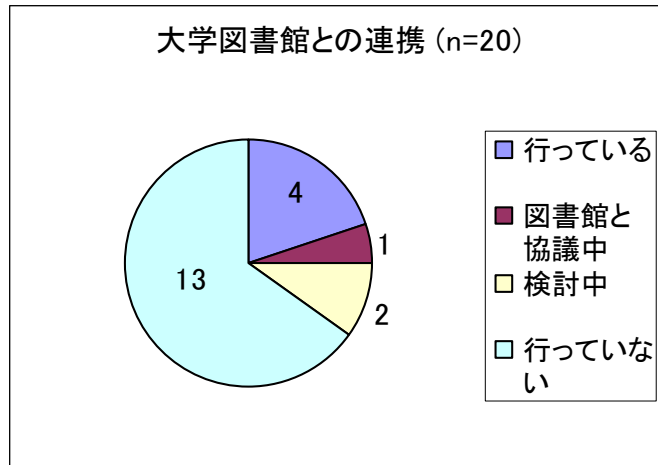


2. アンケート調査（病院）結果2-3

スタッフ業務内容



2. アンケート調査（病院）結果2-4



2. アンケート調査（病院）結果2-4

連携を行っている / 具体的に図書館と協議中:

- 図書業務全般への助言・指導
- 市立図書館からの資料借受仲介

連携を行っていない:

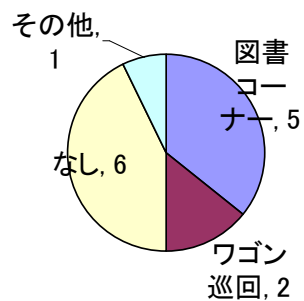
- 必要がない
- 交流がない
- 大学図書館の案内を院内に掲示している

2. 病院内患者図書室(あり)のまとめ

- ◆ 運営主体=ボランティア, 予算=なし, 資料収集手段=寄贈
- ◆ 大学図書館との連携は, 医療情報の提供という点では殆ど行われていない

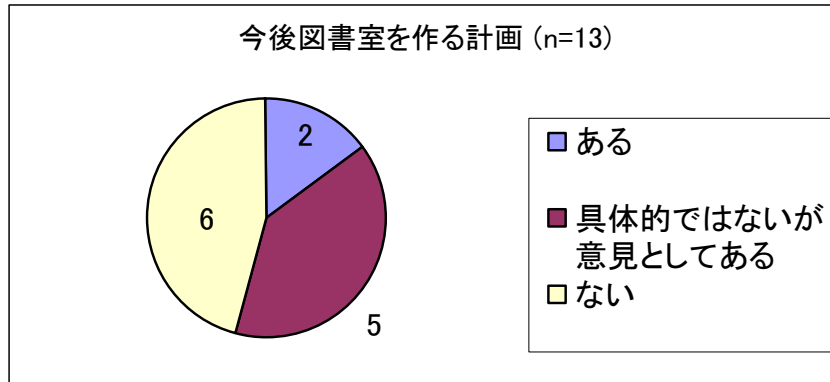
2. アンケート調査(病院) 結果3-1

図書室の代替サービス (n=14)



重複回答: 1件

2. アンケート調査（病院）結果3-2



2. アンケート調査（病院）結果3-3

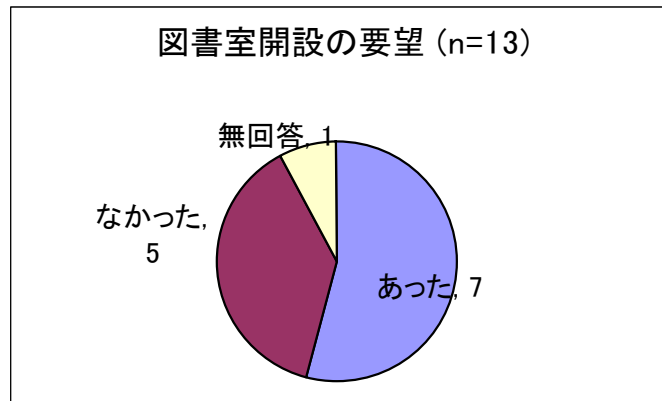
計画あり / 院内に意見あり:

- 病棟の再開発・新築・増改築に盛り込んで計画
- ビジネスルームや談話室の新設に含めて計画
- 大学図書館分室を院内に設置

計画なし:

- 部屋がない
- 大学図書館で対応可能

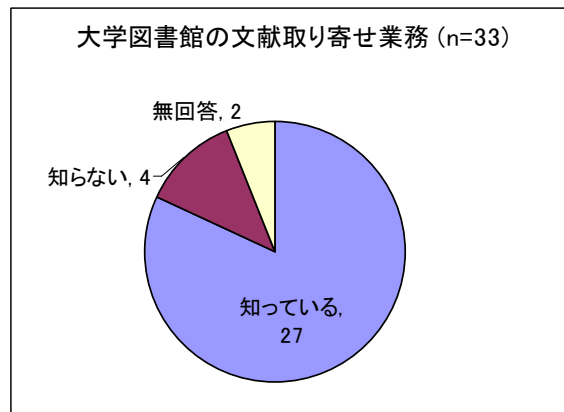
2. アンケート調査（病院）結果3-4



2. 病院内患者図書室（なし）のまとめ

- ◆ 患者の方からの図書室設置要望
- ◆ 患者サービスの一環として図書室設置の必要性
- ◆ 現状の困難さ...場所, 人
- ◆ 大学図書館を紹介することで解決
(図書館との具体的な連携・話し合い?)

2. アンケート調査（病院）結果4



2. アンケート調査（病院）結果5

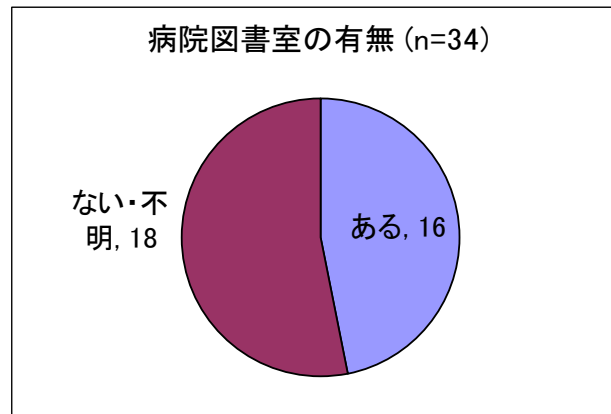
自由記述

- 現在ある院内図書室は患者さんにとって辛いことの多い療養生活の中で「癒しの空間」として存在意義が大きい
- 医療相談があれば地域医療連携センターを訪ねてもらう
- 図書室は各病棟に図書持ち出し・持ち込み自由な形で設置しており、実態把握や管理はできていない
- 病院内図書室における医療情報提供は患者さんの治療参加のきっかけに有効と考えられ、前向きに検討していきたい

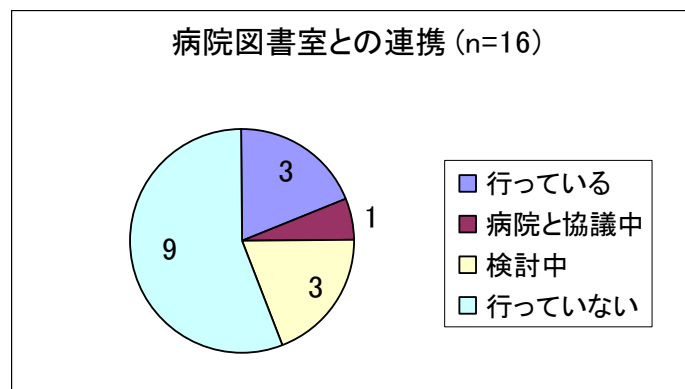
病院患者図書室...

医療情報を得る場 ≒ 娯楽, 余暇や診療待ち時間に過ごす場

3. アンケート調査(図書館) 結果1



3. アンケート調査(図書館) 結果2



3. アンケート調査(図書館) 結果2

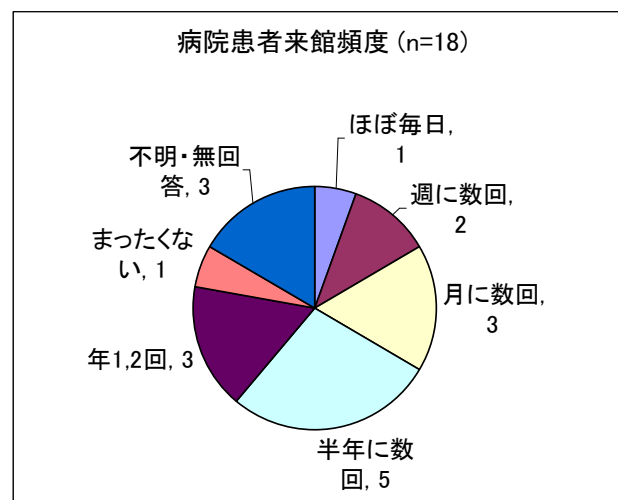
連携を行っている / 具体的に病院と協議中:

- 図書業務全般への助言・指導
- 市立図書館からの資料借受仲介
- 院内図書室開設時の全面サポート

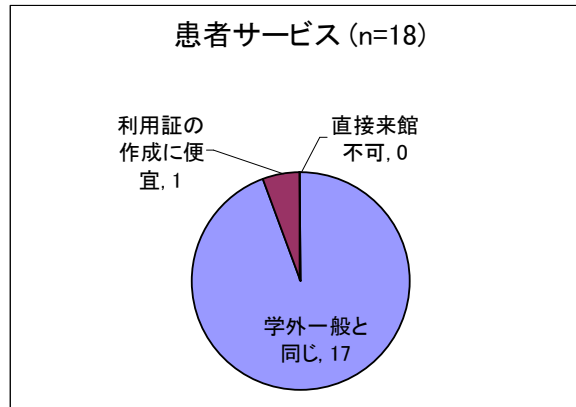
連携を行っていない:

- 要望がない, 交流がない
- 図書館業務に支障
- 大学図書館を直接利用してもらう

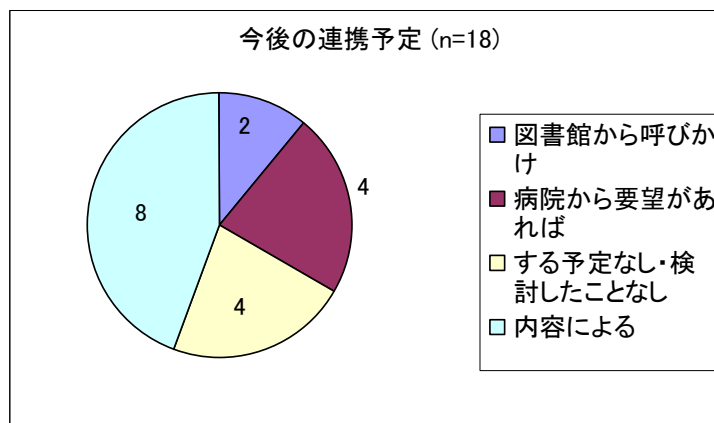
3. アンケート調査(図書館) 結果3-1



3. アンケート調査(図書館) 結果3-2



3. アンケート調査(図書館) 結果3-3



3. アンケート調査(図書館)結果4

自由記述

- 資料収集・情報提供には医療従事者との協力が必要
- サービス対象には患者の方も含むが、大学図書館は基本的に教育・研究目的であり、患者用の資料収集を積極的に行うなどのサービスは難しい
- 患者の方への医療情報提供は病院の患者サービスとして行われるべきである
- 病院内患者図書室との連携は望ましいが、現状は病院担当者との意識・認識の違いや運営の状況から困難
- 患者の方にも使ってもらえるような資料も一部揃えており、今後も充実させて利用してもらいたい

4. 結論

- 病院患者図書室では患者等利用者を必要な資料・情報に結びつけるための「人」が十分に機能していない
- 大学図書館の大半は患者等へのサービスを主体的に行うことには疑問を持っている
- 課題:医療関連情報提供サービスの意義・目的を共有すること
サービス主体・責任の部署を明確にし、組織として存続させていくこと